



「金蘭千里五十年の 思い出とボブ・ディラン」

尚友会会長

岸本 大三郎

私が金蘭千里五十年の歴史を振り返るとき、ボブ・ディランの「風に吹かれて」(一九六二年)の歌詞が頭を過ぎります。自分で自分の力もわからない、先の見えない受験勉強。金蘭千里に当てはめて、あとどれくらい「二十分テスト」を受けたら大学に進めるのか? 答えは風に吹かれている...と感傷に浸りながら歌詞を口ずさんでいたことを思い出します。

ボブ・ディランは文学賞受賞の知らせを受け、長い沈黙のあとノーベル受賞式でスピーチを発表しました。「レコードを作ること、自分の曲をラジオで聞くこと、それこそが私にとって大きな賞だったのです。自分の曲が文学なのか? と問いかけたことはこれまでありませんでした。この問いについて考える時間を頂いたこと、最終的にこんなにも素晴らしい答えを頂いたこと、その両方に感謝します。」スウェーデン国立アカデミーの文学賞決定に大変驚き感動し私は快哉を叫びました。五十年かかりましたが文学において顕著な功績をあげたとして評価されたこと、二十一歳の青年が五十年間作り続けた歌が対象になったこと。音楽には素晴らしい力がある、そして若い世代が主役になる歴史的転換点だったと思います。

二期生として三年間担任として指導頂いた岸上先生も、国語の渋谷先生も、英語の安田先生も、そのほか多くの恩師がすでに鬼籍に入られています。しかし五十年にわたり金蘭千里が優秀な人材を輩出し続けてきたのは歴代の校長先生や恩師の皆様が生徒の心を耕し、体を磨きあげて頂いたお陰と深く感謝しています。

「ホームカミングデー」は例年のように六月十七日(土)に開催されますが、校長先生のお話、新設された部活動の紹介や在校生の皆さんとの交流の場も企画しています。合唱部や吹奏楽部による演奏も準備して皆さんをお待ちしています。金蘭千里学園の成長と革新がどのように進んでいるのか皆さんの目と耳で確かめて頂ければ幸いです。



「卒業生に日々感謝」

学校法人金蘭千里学園 理事長
金蘭千里高等学校・中学校 校長

辻本 賢

四月八日、近年珍しく桜が満開の内に入学式を挙行することができました。もともと小糠雨さえなければと思いましたが、贅沢ですね。

平素は、尚友会のみならず、法人の役員、学校医、キャリア教育の講師としてのご支援のみならず、折に触れ、後輩を車中で見かけたときの懐かしさや不満足の声、その他卒業生の情報を校長室にお寄せいただくなど、変わらず、本校教育に関心をお持ちいただき、心強く感謝に堪えません。

この春、卒業生一八五名が尚友会に入会しました。進学先は、それぞれの努力が実を結び、誇るべき成果をあげています。また、今年も優秀な中一生徒、一八八名を迎えることができました。兄弟姉妹、卒業生のお子様各クラス三人以上在籍しており、本校教育が評価されているものと大変嬉しく思っています。

創立五十年を機に、金蘭千里は、伝統(例えば塾と道場、校技、キャンプ、二十分テスト)を継承しつつ、一気にワン・パッケージで改革を進めています。改革は、制服、入試制度、部活動、高中祭など多岐にわたっており、ついにこの四月、全学年が新制服を身にまとい登校していますので、あの女子生徒のベレー帽と制服を見ていただけなくなりました。みなさん方が制服を見て後輩だと知る機会はなくなってしまうと若干心ざみしく思っています。

尚友会の皆さまから、創立五十年を記念して、多額の寄付をいただき、その一部でピアノを購入し、授業で使わせていただいています。是非とも、ホームカミングデーにお越しいただきご覧ください。

なお、当日、合唱部、吹奏楽部がお迎えします。グラウンド購入につきましては、動きがありません。金蘭千里中・高等学校への入学や転入学につきましても、遠慮なくご相談下さい。



H28.6.18

第11回 ホームカミングディ 開催



第10回開催(H27)から、スポーツイベントと文化交流イベント(在校生による)が、ほぼ同時時間帯から始められました。グラウンドではサッカー、体育館ではバレーボールを楽しむかわら、音楽教室で合唱部、光の広場で吹奏楽部がクラブ発表を致しました。

その後、視聴覚教室では、校長先生のお話と総会が行われ、恒例の懇親会が開催され、懐かしの先生との再会に和やかな会となりました。



バレーボール



サッカー



クラブ発表(合唱部)



クラブ発表(吹奏楽部)



懇親会